

観客 34,299人
 回戦 2勝2敗
 10 0 1 0 6
 21 0 1 X 11
 3勝1敗
 2勝3敗
 9① (風張5)

セ・本塁打
 (22日現在)
 筒香 (De) 7
 ビンエド (中) 6
 ゴメス (神) 6
 ドロッド (広) 6
 山田 (ヤ) 5
 野越 (神) 4
 江川 (神) 4
 ルンテン (ヤ) 4
 ロベス (De) 4

セ・リーグ打撃成績 (22日現在)

選手	率	打点	本塁打	打数
①ビンエド(中)	.368	76	15	6
②ドロッド(広)	.367	29	14	6
③菊池(神)	.360	29	14	6
④山田(ヤ)	.342	27	12	6
⑤福留(神)	.339	27	11	6
⑥坂口(ヤ)	.337	27	11	6
⑦坂本(神)	.333	27	11	6
⑧丸根(神)	.326	22	9	6
⑨川上(神)	.323	23	13	4
⑩高橋(中)	.317	82	26	11

セ・リーグ勝敗表
 (22日現在)

試合	勝利	敗北	引分	勝率	差
①巨	12	7	8	.632	-1.0
②中	21	11	10	.579	0.5
③阪	21	11	10	.524	0.5
④広	21	11	10	.429	2.0
⑤ヤク	22	9	9	.300	2.5
⑥De	NA	NA	NA	NA	NA

中日は今季最多の15安打、11得点で打ち勝った。2度目の4連勝で、今季最多の勝ち越し3。一回に5安打を集めて4点を先制。追い付かれた直後の三回に杉山の勝ち越し適時打、荒木の2点適時打で突き放した。先発若松は制球に苦しみ、今季最短の5回で降板したが、味方の援護もあって3勝目。ヤクルトは先発石川が誤算だった。

阪神 日11-6 ヤクルト

神12-9 広島

天8-7 西武

竜4連勝

荒木 ベテランの妙味



普段ならまだファンが多くない一回か、スタンドの大部分が青一色に染まった。選手と同じ限定ユニフォームのレプリカがプレゼントされる。今季最初の「昇竜」。出足の早いファンを喜ばせた。足踏の早い荒木は、荒木がたまたまつけた一打から大きなうねりとなった。

先頭の大島が中前打を放ち無失点。4球目、ヒットエンドランのサインが出た。いきなりの積極策にも、あるかないかと思えば「とまるで動かない」といふ。あれが、一番確率が高い。シノカを大きく空いた三遊間。緩いゴロがレフトへ抜けて、三塁となった。

ここぞの適時打&声かけ

守りでもベンチに声が光った。一回、制球に苦しむ先発若松に声をかけた。直後の4番バレンティンは一飛六回無失点、二塁でも、ボールが縮く若松に近い位置を取った。代打田中浩は右飛。「抑えたからいいタイミングだったって言われるけど、時宜を得た気配りで本調子でなかった若松を支えた。」

4試合ぶりの先発出場は、故郷の熊本が大地震に見舞われてからは初めてだった。右翼スタンドには「がんばろう熊本」の横断幕が掲げられた。

だからといって、カミサズることはない。「絶対に勇氣つけたい」と思っても、相手がどう感じてくれるかわからない。プロ21年目を迎える。全力で善えた力を「ワンポイント」で出す。「野球が仕事だから、しっかり一生懸命努力して、それを見てもらう」としかできない。いつも通りのプレーに、苦しい時間を過ごす故郷への思いが宿っていた。(海老名徳馬)



中日 ヤクルト 3回裏2死満塁、荒木が中前の点適時打を放つ

○インフルエンザで欠場した谷繁監督に代わって指揮を執った森ヘッドコーチ。チーム相率リーグトップのヤクルトが相手だけに「1、2点の試合はできな」と思った。一回無失点からヒットエンドランで先制機を駆け、積極策で大量得点を叩き込んだ。

前の試合の17日から4日間試合がなかったため「できるだけ多くの投手を使ったかった」と小刻みな雑投で反撃を断った。監督と相談して先発メンバーを決めた。「重要な負け方をしない」と冗談を飛ばしつつ、「誰がやっても勝てる試合は勝てる。今日は野手さままです」と今季最多安打を放った。

復帰の平田仕事絶妙



左股関節を痛めて戦線を離れた平田が、約20日ぶりの1軍出場で見事に結果を出した。7-4で迎えた五回、風張が投じた外角高め、146km/hの直球を右方向に打

適時二塁打

「打った瞬間に入ることになった。六回にも外角の速球を右中間へはき返す適時二塁打。石川の飛距離が自分の売り。ああいう打球が2本出て良かった。一回からつながらた打線の勢いに乗り、存分に持ち味を発揮した。」

昨年苦しんだ左股関節の炎症。今季は4月に入ってから強まり、5月に出場選手登録を抹消された。具体的な原因はつかめていないが、「炎症を引けば問題なく動ける」という。その言葉通り、けがの影響を全く感じさせないスイング。好調の打線に平田が戻り、迫力がさらに増した。(佐藤航)

5回裏無死、平田が右翼スローを放つ